



## 大阪市内南部地域合唱発表会

8月26

「昴」と「私の好きなこの街支援合唱団」が「推薦」獲得！

□ 8月26日（日）2012年大阪のうたごえ・大阪市内南部地域合唱発表会が大阪市東成区民センター小ホールで開かれ、「昴」と「私の好きなこの街支援合唱団」は見事「推薦」を勝ち取りました。12団体参加のうち7団体が「推薦」となりました。

□ 「昴」は本並先生指揮、森さんのピアノで「天の火」と「おらぁこごがいい」を元気に、「私の好きなこの街支援合唱団」は檀先生の指揮、同じく森さんのピアノで「海に生きたあなた」と「気仙大工・左官伝承館の歌」を気持ちを込めて、それぞれ、全29名、全38名のステージで歌いました。東尾さんは客席からの応援でした。



□ 「昴」は元気なのはいいがもう少し強弱をつけてと厳しめの講評、「私の好きなこの街支援合唱団」は選曲、合唱力とも女声がすばらしいなど絶賛に近い好評で満票が入ったの推薦でした。できれば楽譜をもたずという評もありましたので、次回から暗譜を検討しましょう。

□打ち上げで「延羽の湯」で両合唱団と有志を含めて会食と「反省会」。東北支援の再総括もしました。

□次は、10月14日（日）LIC羽曳野での「大阪のうたごえ・合唱発表会」です。ここでも「推薦」を得て「日本のうたごえ・広島」へ皆でそろって行けるよう頑張しましょう。

## 第2回「私の好きなこの街復興支援コンサート」アンケート

日時 2012年8月19日

場所 陸前高田市立第一中学校体育館

・気仙大工左官伝承館の歌、初めて聞き、わが小友の町、気仙大工の誉れ、景色、気持すべて入っていて、とてもほほえましく誇りを持って生きる力がします。兄も気仙大工をしております。この歌を聞かせてあげたい、心の癒しの宝物として手本として届けたいと思います。「おらあやっぱここがいい」と「気仙大工左官伝承館の歌」のCDが是非欲しいです。待っています。よろしくお願いします。すばらしいショーでした。とても良いコンサートでした。雪の女王も良かった。ただで見せていただくととても恐縮です。また3回目お待ちしております。お疲れさまでした。ありがとうございました。

<被害>昔の家は全壊です。仮設住まいです。早く我が家に入りたいです。（60代・女性・小友町仮設住宅）

・久しぶりに美しい歌声をきかせていただいて、文化にふれさせていただきました。子どもたちの歌声も素敵で、亡くなった3人の孫たちを本当に思い出しています。

<被害>大切な主人、孫3人、第2人、長男の嫁の母親とたくさんの宝物を失いどん底を味わっています。（60代・女性・第一中仮設住宅）

・今日で2回目のコンサートありがとうございます。前回にも増して素晴らしかったです。生まれて初めてコーラスミュージカルを聞かせていただき、感動しました。もっと多くの方が来てくれたら良かったのに……。私たちは大変得をしました。素晴らしい歌声ありがとうございます。またいらしてください。遠い所ありがとうございます。熊谷海音ちゃんの歌が上手になり、もっともっと上手になりますように。

<被害>家屋は全壊、夫は死亡、義弟は行方不明。（50代・女性・栃が沢仮設住宅）

・男声の声の素晴らしさ、初めてこんないい声に出会いました。とてもすばらしい合唱団だと思いました。コーラスミュージカルはとても明るくて良かったです。素晴らしいです。これから私もできる出来る限りがんばって生きていこうと思います。今日はとてもいい日でした。

<被害>なかなか復興が進まないの、ゆっくりとながめ考えていきたいと思っております。私は自営業を細々と手伝い、主人が63歳で半身不随の脳梗塞にかかり9年の看護生活をしていて津波に遭いました。津波は恐ろしいです。親子三代築いた資産すべて持ち去ってしまうので悔しいです。震災後食べ物がないで本当に困りました。今でもあの時のことは一生忘れないと思います。（70代・女性・仮設住宅）

・すばらしかった。私合唱団を主宰しています。伝承館の歌感激いたしました。是非CDを発売してほしいです。大人数うらやましいです。（70代・女性・陸前高田）

・死んだ兄を思い出して涙が出ました。兄も混声合唱で大学時代指揮をしていました。全体とてもよかった。（70代・女性・高田町栃が沢）

・今日は本当にいやされました。来て良かったと思います。ほんとうにありがとうございました。被災後東京にて足の治療をして今は元気に過ごせることに感謝しております。

（70代・女性・第一中仮設住宅）

・職人の詩が素晴らしい。本当にありがとうございます。全部良かった。最高に元気と希望を頂きました。踊りの会のメンバーの宿六です。

<被害>マイホームすべてを失いました。皆さんのお気持ちを有り難く受け止め無理をせずガンバ！（80代・男性・第一中仮設住宅）

・最高でした <被害>津波で全部流されました。普通なら死んでいると思うが食べ物も用意していただいてありがたい。しかし先が見えません（70代・女性・横田仮設住宅）



・初めてミュージカルを見させていただきました。すばらしかった。大変良かったです。もう少し子どもたちの出番があったらよかったと思います。

<被害>未来ある子どもたちがもっとおだやかに、そして強く生きていける心のケアを望みます。今日の日は私も忘れません。これからがんばってくださいね（60代・女性・宮城県・新聞をみて）

・ピアノの音が強い気がした。全体的に力強く良かったです。また来高できることがありましたら、高田市民歌も歌ってほしいです。（60代・女性・第一中仮設住宅）

・大変よろしい。<被害>全部流されて今は仮設。旦那なくなって一人になって足も不自由。これからもどうぞよろしく。（70代・女性・仮設暮らしをみて）

・本格的！すごい！！（20代・男性・大船渡市）

・ありがとうございました。勇気ができました。（30代・男性・大阪から出向中）

・とてもよかった。2回目です。全部いい（70代・女性・高田町）

・みんな良かったです。なかなかこんな見られませんか

「うた新聞」への投稿 立川孝信

## 関西から53名、被災地にて2回目の支援コンサート開催！！ －被災地の子ども達とミュージカル上演－

昂は昨年11月、日うた祭典の翌日に陸前高田で初めて被災地支援コンサートを取り組み、何もない真っ暗な街と人々の心に小さな灯を灯してきました。その時に交流できた子ども達や仮設住宅の踊りグループとともに一年も経たない今夏2回目の支援コンサートが実現しました。

今回は昂30名と女性達を含め53名で「私の好きなこの街支援合唱団」を結成し参加しました。平均年齢70歳の高齢合唱団が長距離貸切バスで16時間をかけて、陸前高田へ向かいました。

8/18は到着してすぐ奇跡の一本松など街並みを見学しました。新しい建物はなく、復興の兆しが全くない状況でしたが、明日への一筋の光はひまわりの花が暑い日差しを浴びながらもあちこちにしっかり咲き誇っていることでした。その後は陸前高田の箱根山にある気仙大工左官伝承館へ向かい献歌しました。ここは昔から優秀な大工や左官を輩出し、全国的に活躍したところでその偉業を讃えてこの伝承館が建てられました。ここには阪神大震災の時の復興の火が「希望の灯」として燃え続けています。昂の副指揮者の檀美知生と村嶋由紀子の夫妻はこの間9回も現地へ出向き、震災遺児の子どもたちへ歌の指導や仮設住宅の方々との交流を深め、この伝承館でもソロコンサートを行い、その時に「気仙大工左官伝承館の歌」を創作したのです。

いよいよ19日、支援コンサートPart2の開幕です。観客約200人を前に、まず昂が「林道人夫」など力強い歌を5曲、続いて混声で「海に生きたあなたよ」他2曲と続き、仮設踊りの会が私達の歌で「島のブルース」を優雅に踊りました。何と言っても今回のメイン企画は地元の子供達と創るコーラスミュージカル「雪の女王」でした。村嶋由紀子脚本、演出で今回のコンサートのために書き下ろした作品で、内容は環境破壊や原発汚染を引き起こした人間に怒った雪の女王は人間の子供をさらって氷に閉じ込めるが、人間の愛と団結力で元の地球を取り戻すという冒険ファンタジーです。大人は関西の女声アンサンブル「アモーレ」、子ども役は両親を津波で亡くした熊谷かのんちゃん、新沼あかりちゃん、新沼みのりちゃんの3人の遺児たちといとこの松田ゆきなちゃんの4人で「AKMY」というグループを結成し、檀夫妻の指導で台詞も歌も立派にやりこなし、感動の涙を誘いました。故高平つぐゆき氏の名曲が





数多く挿入され、本格的なコーラスミュージカルにたくさんのアンケートが寄せられ、「たくさんの宝物を失ったがこれからも頑張って生きていこうと思う」「最高に元気と希望をいただきました」などと生きる勇気につながったとの言葉が多くあり、読売、毎日、地元紙などの新聞も「被災乗り越え音楽劇」「被災にめげず舞台」などの見出しで、子ども達の熱演に会場は大粒の涙と笑いに包まれたと報道しました。今回はお昼公演でしたので「おらあここがいい」の歌で会場全体は総踊りとなり、その後はプレゼントを配りながら、交流会となりました。子ども達が澄んだ歌声を披露してくれました。

20日は朝から大船渡の富美岡荘老人ホームを訪問し、200人の前でコンサートをしました。ちょうど誕生日会の日で皆さん90歳を超しておられました。ハッピーバースデーの歌や北国の春など元気に歌い交わし、終始やんやの拍手と声援で大いに盛り上がりました。励ましに行ったつもりが、超高齢の皆さんから元気をもらいました。施設の方から「また来るねと言ってもほとんどの人が来ないけど、本当に来てくれてとても嬉しい」の言葉をいただきました。

帰路は遠野観光をしました。ベタベタの遠野弁のガイドさんがカップパ淵やふるさと村を案内され、しばし宮沢賢治のイーハトーブの日本の原風景に触れて癒されました。その後、秋保温泉に入り、16時間かけて帰阪しました。平均年齢70歳の高齢合唱団にとってさすがに体調のことが気になる出来事もあり、ハードスケジュールの支援コンサートでしたが身も心も軽く、とても大きな祭典をやり遂げたような達成感を味わえた音楽の旅でした。復興がいつになるか見通しのない被災地の現実、遅々として進まない行政に苛立つ被災者の皆さんに少しでも生きる希望の灯を灯せたり、人々と触れ合う楽しさを感じてもらえたことを肌を感じ、「うたごえ」が人々を励まし、その人々の瞳の輝きが私達に跳ね返ってくる、うたごえの原点ともいえるべき運動が出来た喜びを、また関西で被災地の状況を伝える決意をしっかりと胸に刻みつけて遠距離バスに揺られながら帰阪しました。

大反響！

全国紙、地方紙にたくさん掲載されました。

毎日新聞 8月17日 夕刊

毎日新聞 8月17日 夕刊



東日本大震災で両親を亡くした岩手県陸前高田市の小学3年生3人と、その同級生が19日、同市内でミュージカルに出演する。阪神大震災後に子どもたちの心のケアに当たった神戸市立中学の元教諭が企画した。音楽を通じて笑顔を取り戻しつつある子どもたちは「私たちの歌と踊りでみんなを元気にしたい」と話している。  
【藤頭一郎】

歌おう  
踊ろう  
元気だそう

## 小3 震災遺児3人 舞台へ



震災遺児らとコンサートを開く村嶋さん夫妻  
—兵庫県芦屋市で、藤撮影

神戸の元教諭が企画

19日、陸前高田でミュージカル

出演するのは、仙台市で、名前の頭文字を取った両親と姉、祖母を亡くした「AKMY」を結成した。陸前高田市の親類に引き取られた熊谷海音さん(9)、名付け親で元教諭の村嶋由同市で両親と祖母、曾祖母を亡くした双子の新沼朱莉さん(8)と美亮さん(8)。新沼さんのいとこの市で開いた復興支援コンサート。4人とも同市立高田小。今年1月に同市で開いたコンサートには海音さんがアイドルグループにあやか演じた。このとき会場に



## 陸前高田 家族失った小学生ら

津波で家族や自宅を失った小学生たちが出演するミュージカルが19日、陸前高田市立第一中体育館で開かれた。関西の元中学校教諭らによる復興支援コンサートの一幕で、子どもたちの歌声やひたむきな演技に大きな拍手が送られた。

出演したのは、震災で家族を亡くした市立高田小3年熊谷海音さん(9)や、同小3年で、市内の仮設住宅で暮らす双子の新沼朱莉さん(8)、美堯さん(8)姉妹ら。

仙台市若林区に住んでいた海音さんは、震災で父(当時43歳)と母(同37歳)、姉(同9歳)を亡くし、陸前高田市に住む父方の祖父母に引き取られた。

歌が大好きな海音さんは昨年11月、陸前高田市で開かれた支援コンサートを訪れた

ミュージカルで歌う海音さん(左から2人目)ら(19日、陸前高田市立第一中体育館で)



際、「私も歌いたい」と立候補。アカペラで歌ったことがきっかけで、コンサートを主催した兵庫県芦屋市の元中学校教諭村嶋由紀子さん(65)と交流が始まった。村嶋さんの勧めもあり、今年に入ってから陸前高田市内の教室で歌を習っている。

村嶋さんが企画したこの日のミュージカルは、地球を汚す人間に腹を立てた「雪の女王」にさらわれた子どもたちが、仲間と励まし合って無事家族のもとに帰るというストーリー。約2週間の練習を重ね、堂々とした歌声と演技を披露した海音さんは「出来は99点。ちょっと迫力が足りなかったけど、楽しくできた」と満足そうだった。

村嶋さんは「子どもたちが気持ちを前に出している様子が素晴らしかった」と笑顔。海音さんの祖母隆子さん(70)は「昨年は、(海音さんの父で亡くなった)息子を親不孝者と思っていたが、今は海音を残してくれたことが最高の親孝行だと思えます」と話していた。



# 頑張り 希望の明かりに

東日本大震災で両親を亡くした小学生らが岩手県陸前高田市で19日、関西の合唱団員とミュージカルを共演した。阪神大震災後に神戸市の中学校で生徒の心のケアにあたった元教諭が企画。「私たちの頑張りで希望の明かりを」と願う子どもたちの熱演に、約300人の会場は大粒の涙と笑いに包まれた。

出演したのは、いずれも陸前高田市立高田小3年で、仙台市で被災し陸前高田の祖父母宅に引き取られた熊谷海音さん(9)▽仮設住宅の叔父宅で暮らす新沼朱莉さん(8)、美堯さん(8)の双子姉妹——の遺児3人に、姉妹のいとこの松田由希菜さん(9)を加えた4人。

## 震災遺児らミュージカル出演



舞台上で歌う(前列右から)新沼美堯さん、朱莉さん、松田由希菜さん、熊谷海音さん—岩手県陸前高田市で19日、小川昌宏撮影

脚本・演出は、阪神大震災で被災した兵庫県芦屋市の元教諭、村嶋由紀子さん(65)。夫で声楽家の檀美知生さん(65)と陸前高田で慰問コンサ

ートを数回開き、「一緒に歌いたい」と申し出た4人と知り合った。4人は5月に名前の頭文字からユニット「AKMY」を結成し、コンサートにも加わった。

ミュージカルは「雪の女王」。地球温暖化や放射能汚染に怒った女王が村の子ども4人を連れ去ってしまう物語だ。4人と合唱団はこの2カ月間、それぞれで稽古を続け、合同リハーサルは1回だけだったが、「団結して困難に立ち向かうことの大切さ」をテーマに4人が励まし合って悲しみを乗り越える姿に、会場にはカーテンコールが鳴り響いた。

「緊張したけど皆に元気を与えられたと思う」と話した4人。海音さんの祖母隆子さん(70)は「孫は両親の声を忘れたと言って泣いていたが、歌に救われた」と声を詰まらせた。

【根本太一】